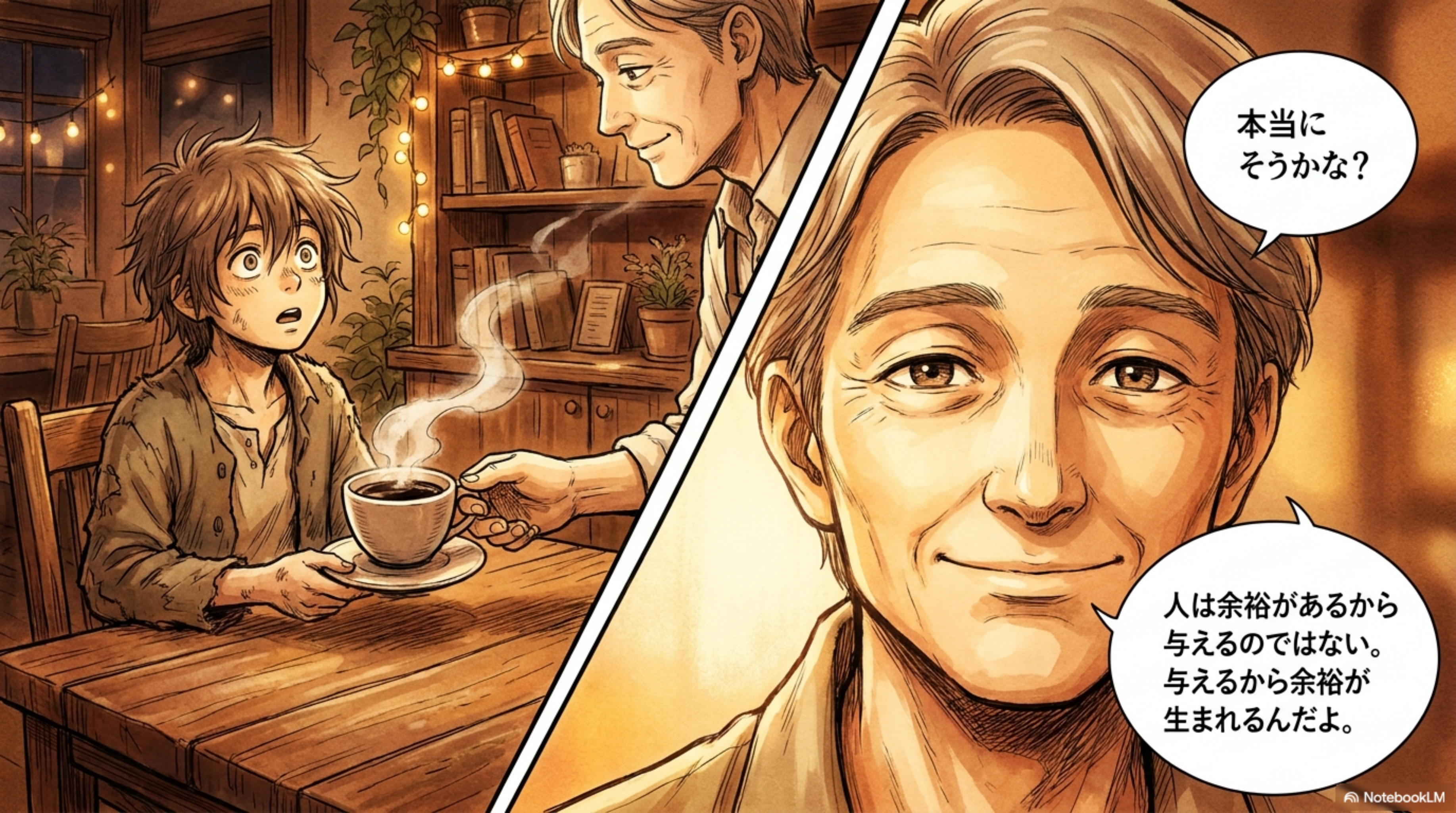




余裕ができれば、
誰かのために
何かしたいな...

でも今は、
自分の生活だけ
で精一杯だ。



本当に
そうかな？

人は余裕があるから
与えるのではない。
与えるから余裕が
生まれるんだよ。

ユダヤの伝統的な教えに
「タイズ」という概念がある。
収入の10分の1を捧げる習慣だ。

多くの人は余裕ができてから
与えようとする。
でもタイズは違う。
余裕がない時から行うこと
に意味があるんだ。

与えるという行為その
ものが、人間の在り方を
変えるからね。
この順番を理解している
かが分岐点になる。

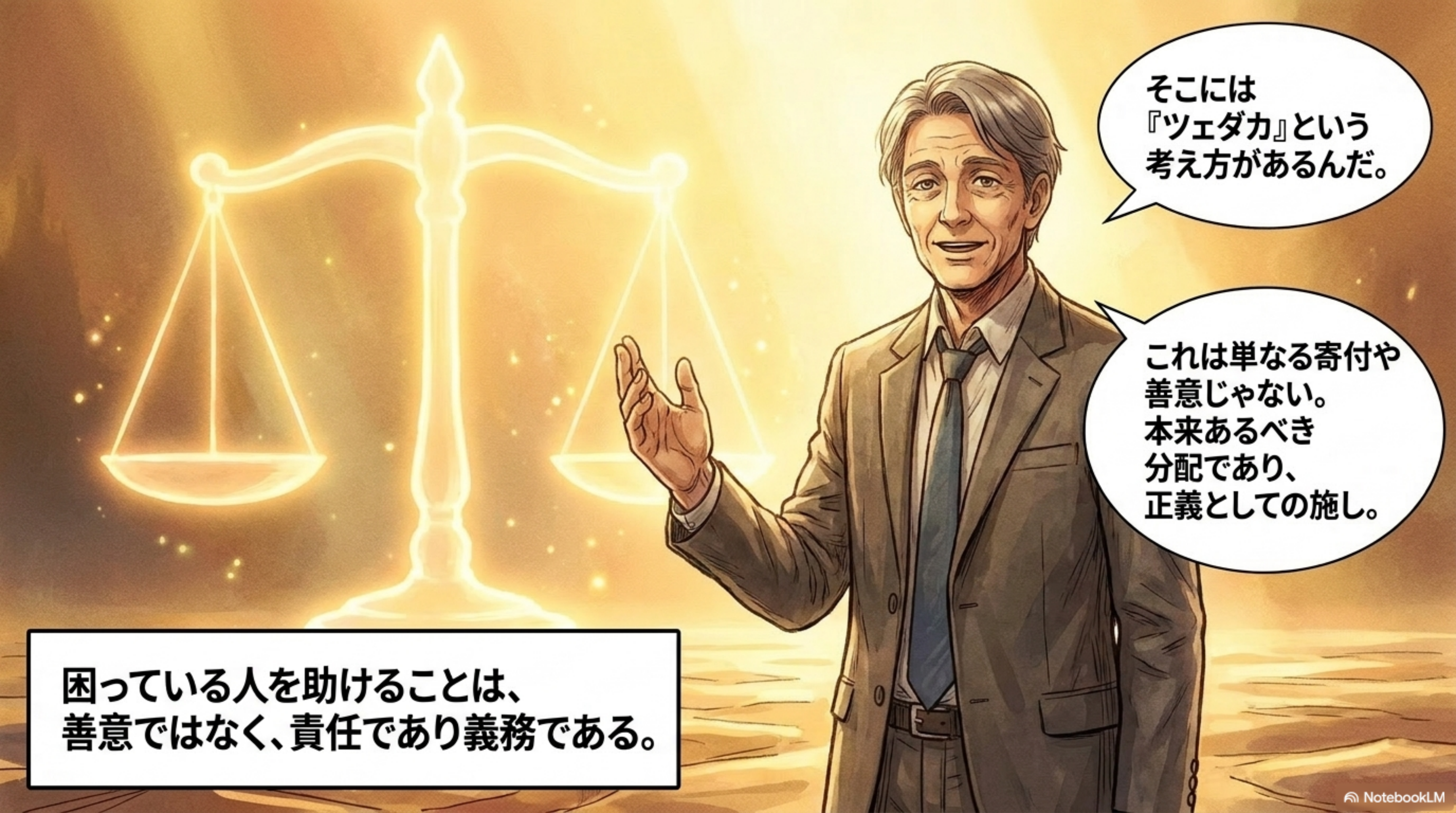




みんな、決して
お金に余裕がある
わけじゃないのに…



どうして自分の分を
減らしてまで、
人に与えるんだろう？

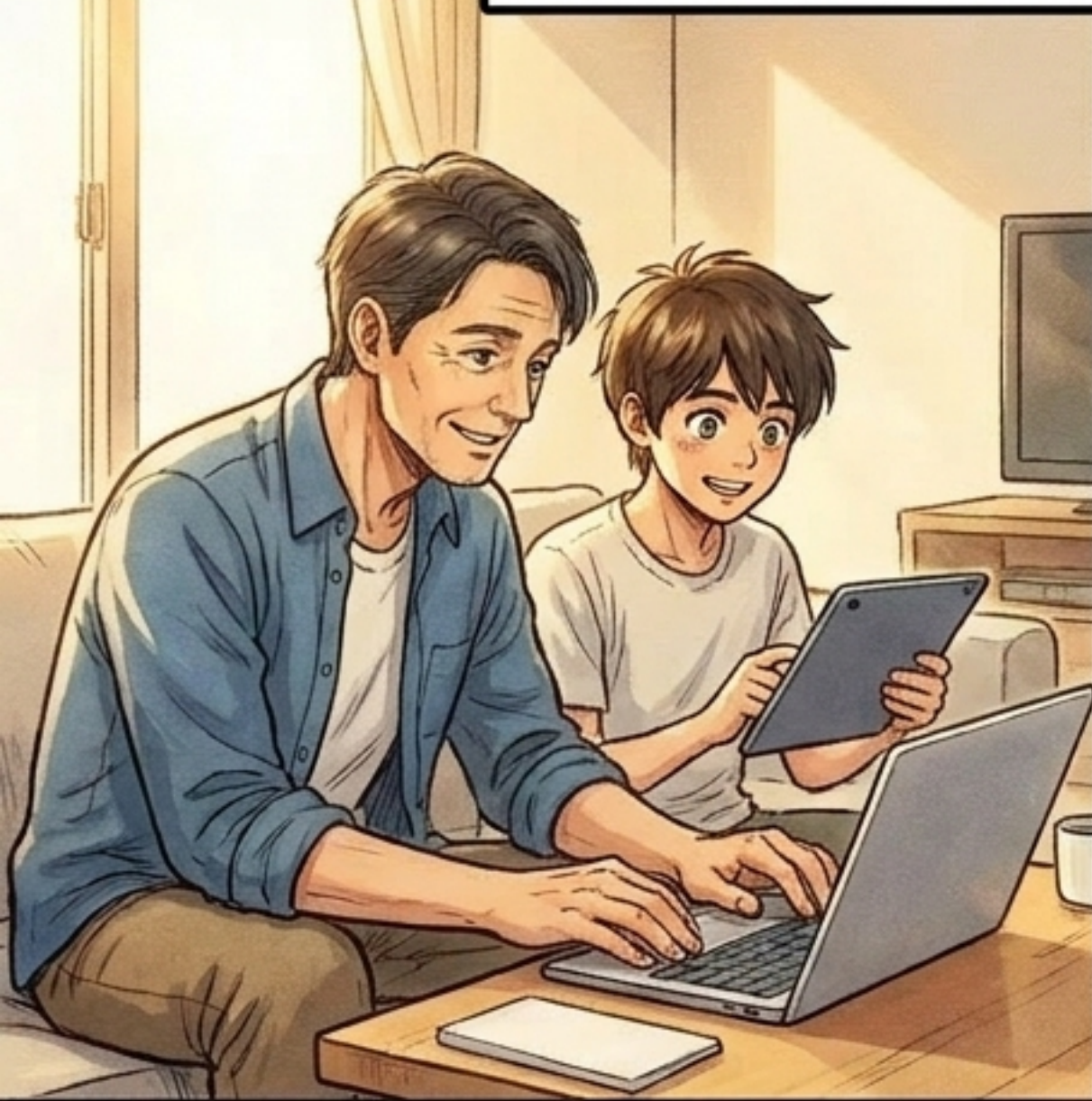
A man with grey hair, wearing a dark suit, white shirt, and dark tie, stands on the right side of the frame. He is gesturing with his right hand towards a large, glowing scale of justice on the left. The scale is made of a bright, golden-yellow light, with two pans hanging from a central beam. The background is a warm, golden-yellow gradient with some faint, sparkling light effects. The overall tone is serious and contemplative.

そこには
『ツェダカ』という
考え方があるんだ。

これは単なる寄付や
善意じゃない。
本来あるべき
分配であり、
正義としての施し。

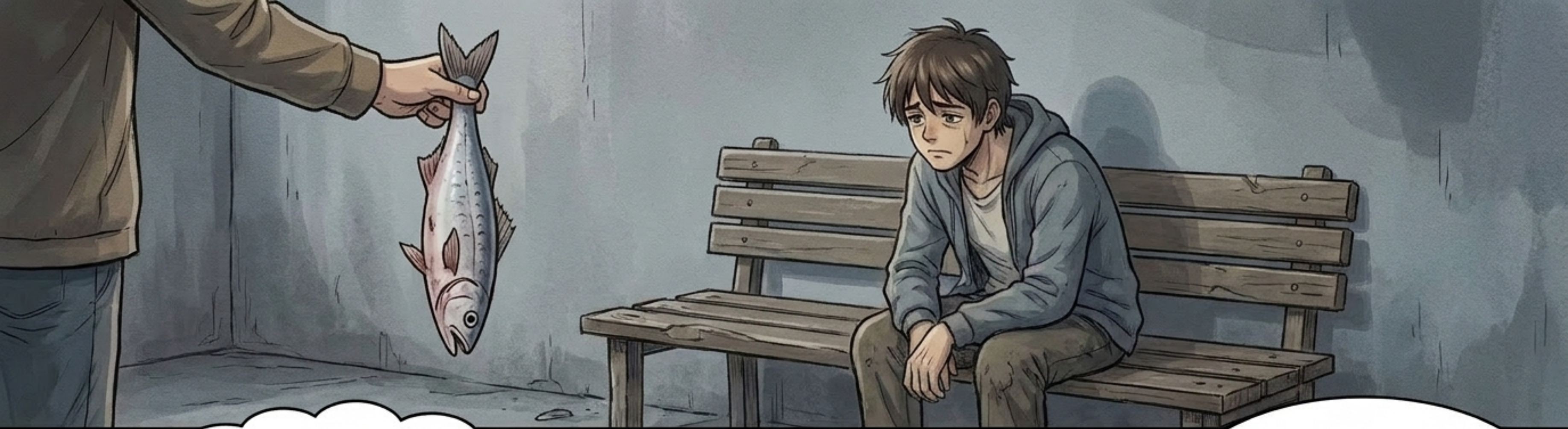
困っている人を助けることは、
善意ではなく、責任であり義務である。

ただお金を渡すだけでは、一時的な救済になり、時に依存を生む。



最も価値があるのは、
自立を促す支援。
仕事や学びの機会を与え、
環境を整えることなんだ。





(単にモノをあげること
じゃないんだ…)

〇〇〇

魚をただ与えるの
ではなく、
釣り方を教える。

さらに言えば、魚の味を伝え、
共に食べる喜びまで伝える。
ここにツェダカの本質が
あるんだ。



与える習慣である「タイズ」。与え方の智慧である「ツェダカ」。

ただ与えるだけでなく、
未来を生む形で与える…

自分の利益だけで
動かない。
この考え方を持つ人は、
本当に強いよ。



不思議なことに、そういう人の
結果として富が集まるんだ。
お金を追いかけている
わけじゃない。

富とは紙や数字じゃない。
信頼の総量なんだよ。

信頼が集まる。
人が集まる。
機会が集まる。

どうやって減らさないか。
損をしないか。
そこだけに意識が向くと、
発想の幅が狭くなる。



(払うことを「損」と見るか、
「循環」と見るか…)

どうやって還元するか。
循環させるか。
この視点を持つと、
社会との接点が増え、
大きな流れの中に入っていく。



お金は単なる数字ではなく、エネルギーである。

止めれば腐る。流せば巡る。

タイズはその流れを意図的に作る行為。
ツェダカはその流れの質を高める行為なんだよ。



お金が増えたらやろう...
そう考えている限り、
一生始まらない。

お金が増えたらやろう...
そう考えている限り、
一生始まらない。

少しでも与える。
少しでも循環を作る。
小さく始めるんだ。

小さな積み重ねが、人間の器を大きくする。
器が大きくなれば、入る量も増える。
極めてシンプルな構造。



なんだか…前より少しだけ、
息がしやすい気がする。

An illustration of a man with dark hair, wearing a light blue button-down shirt and dark blue jeans, walking away from the viewer down a wide, paved path. The path is lined with tall, leafy trees on both sides. The sky is a warm, golden-orange color, suggesting a sunset or sunrise, with a bright sun visible on the horizon. The man's shadow is cast on the path behind him.

お金に生きる人ではなく、
お金を生かす人になる。
それが本質。

あなたは、お金を追っているだろうか。

それとも、お金が巡る状態を
作っているだろうか。